

第3回 さくら湖水源地域ビジョン策定委員会 開催



「第3回 さくら湖水源地域ビジョン策定委員会」を平成18年12月7日（木）「さくら湖自然観察ステーション」にて開催致しました。

水源地域ビジョンとは、地域の持続的な恒久的な活性化を目指し住民や自治体、ダム事業者、関係行政機関と協力しながら策定する行動計画づくりです。三春ダムとしては、平成18年度内の策定を目指しております。

では、今回開催致しました委員会の内容についてですが、前回頂いた意見についての確認やビジョンの数ある取組メニューの中から最初に取り組むもの（リーディングプロジェクト）について事務局より説明致しました。最初に始めることで、活性化への影響が大きいことや他の活動を誘発し仲間を増やしていける波及効果の高いメニューを選定し了解を頂きました。



委員の方から頂いた意見は、ビジョンとして展望を示すことが重要などの意見を頂きました。

次回の委員会では、ビジョン策定を計画的に推進するための実施体制について議論を頂きたいと考えております。

第4回策定委員会は、2月23日（金）さくら湖自然観察ステーションで開催予定です。

一般の傍聴も出来ますので、是非足を運んではどうでしょうか？

三春ダムのHPでビジョンについて紹介しておりますので、是非ご覧下さい。

地域活性化のために興味のある方は是非三春ダム管理所まで！電話でもメールでもハガキでも何でも結構ですのお待ちしております。



三春ダム管理所ホームページ

<http://www.thr.mlit.go.jp/miharu/index2.htm>

三春ダム管理所ホームページ トップページの「さくら湖水源地域ビジョン」をクリックすると水源地域ビジョンの概要や策定委員会の議事要旨等を詳しくご覧になることができます。



蛇石前貯水池水位低下実験終了について

水質係 吉野

三春ダムでは、6月～9月にかけて出水による栄養塩の供給があり、晴天が続くと日射量が増大し、水温も上昇することからアオコが発生し、水質や景観上の問題となっています。

アオコの優占種としては、ミクロキスティスやフォルミジウムムキコーラなどの藍藻類などで、増殖した後は休眠孢子等として底泥に沈降し、日射量増大・水温上昇等により再び増殖を繰り返しています。

この底泥中の休眠孢子等は乾燥や紫外線によって死滅させることが可能なことから水位を低下させ底泥を空気に露出させ乾燥することにより、アオコの増殖抑制効果がどの位なのかを確認するため、まず本貯水池の前に蛇石前貯水池

での実証試験を実施することになりました。

実証試験について簡単に工程を説明すると、平成18年10月10日より水位EL330mから低下、18日には最低水位EL324.5mまで低下させ、この水位を12月20日までの約60日間ほど維持し干し上げました。

その間、底泥調査に併せて、水位低下前・低下時・低下後における流入・流出水質調査、臭気調査、魚類調査、底生動物調査、水生植物調査などの各調査を実施し、20日にゲートを全閉、27日にはEL330mまで水位が回復し、水位低下試験は終了しました。尚、現在も蛇石前貯水池内環境調査を継続中ですので、調査結果等は後日報告したいと思います。



干し上げ中



水位が回復した現在の蛇石前貯水池

平成18年度 阿武隈川上流児童図画コンクール 入賞作品 表彰式 開催

平成18年度「阿武隈川上流児童図画コンクール」の表彰式が12月27日（水）福島市ウエディングエルティで開催されました。

今年16回目を迎えたこのコンクールは、「川に関する」児童図画の募集を通して、次世代を担う子供たちに川に対する思いを深めて頂くとともに、その作品を広報活動に活用することによって、流域住民の方々に対し、河川愛護意識等の普及と「阿武隈川水系水質汚濁対策連絡協議会」が実施する事業について理解を得ることを目的としています。

今回は、18市町村（154校）の小学校から図画部門735作品、ポスター部門1,267作品、合計2,002作品の応募があり、その中から審査の結果、図画部門26点、ポスター部門27点の入賞作品が選ばれました。



入賞作品を三春ダム資料館で展示する予定です。詳しい日程等決まりましたら管理ニュース・さくら湖だより・ホームページでお知らせいたします。子供たちの色彩豊かな作品の数々をご覧くださいと思います。



平成17年度 展示風景

堤体巡視

三春ダム管理所では、ダム堤体や貯水池周辺の安全確認や設備の点検・整備・補修など、24時間体制で万全な管理に努めています。

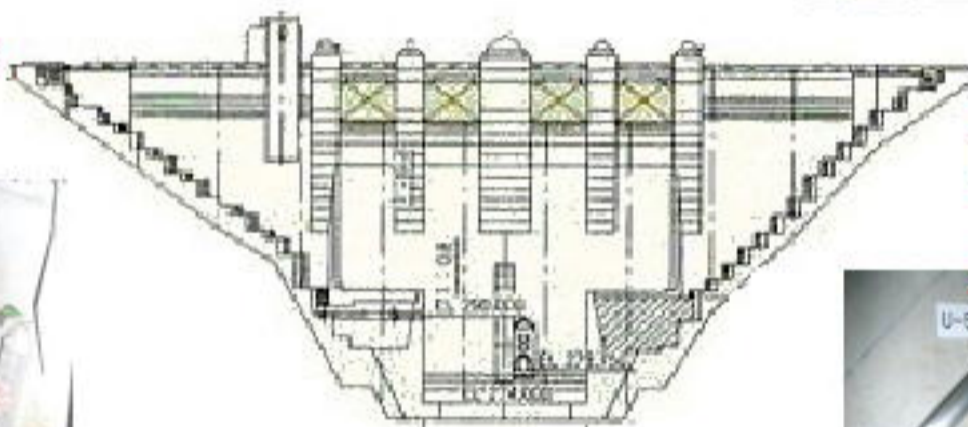
ダム堤体には非常に大きな力がはたらき、季節ごとの気温の変化や貯水池の水位等の影響で変化します。この堤体の安全を確認するため漏水量・揚圧力・変形・堤体クラックなどの観測や巡視・点検を毎週1回二人一組で行っています。



堤体の中は監査廊といって、各種機器や設備の点検などに使われる通路になっています。左岸と右岸に分かれ約240段の急な階段を降りて漏水量や揚圧力を測定します。観測する漏水量や揚圧力は全部で55箇所あり、漏水の量や目視による濁度合、ダムにかかっている圧力等を観測します。



転倒防止のため測定する機器の場所には板を設置しています。



漏水計・揚圧計にはそれぞれ番号がついています。

漏水量は、1分間に堤体からしみ出した水の量を測ります。



堤体の大きさや石を積み重ねたような模様ははっきり見ることができます。



堤体の外の階段を下りて、外装に異常が無いか確認します。



堤体下流からの目視を行います。

堤体巡視を見学して
水質係 石井

今回、管理ニュースの取材と堤体の勉強も兼ねて巡視に同行させて頂きました。

普段、見学案内等で堤体内に入り「この階段は約240段あります。本当に急な階段ですね。」と説明していましたが、実際に上から一段一段降りてみると、下から見るよりかなり急で足がすくみ慣れるまで手すりから手を離すことが出来ませんでした。この急な階段を揚圧力を測るため一定時間を置いて2度降り、堤体の外側の階段も点検のため降りなければなりません。後半はひざが笑っていました。情けない・・・。

ダムを安全で適正に利用するために、日々の点検・観測を行うための変化を見逃さない重要な仕事だと実感しました。今回のこの貴重な体験をこれからの見学案内等に活かしていきたいと思えます。



ミーツちゃん＆れんくんの なぜ?なに?さくら湖

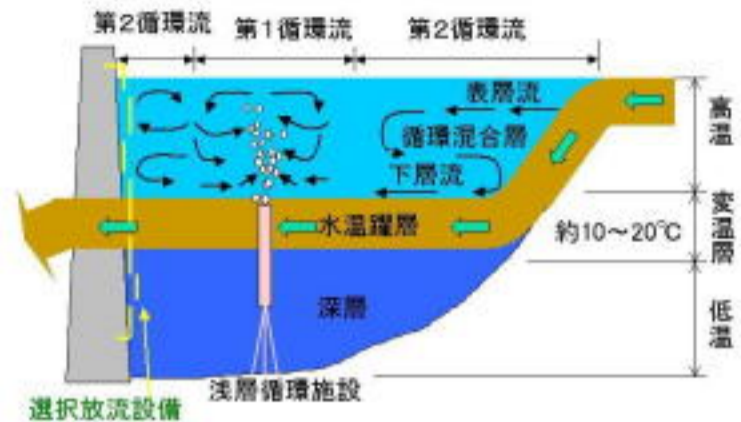


Q. 三春ダムでは、植物プランクトン（アオコ）が増えないように何か対策をしているの？（8月号からのつづき）

A. 先月号までに前貯水池・流入水バイパス管・浅層循環施設・深層曝気の4つの施設をご紹介しましたが、最後に「流動制御」をご紹介します。

さくら湖の水は浅層循環施設の稼働により、大きく3層に分かれています。表層（一番上の層）は太陽の光で温められて一番温かく、深層（一番下の層）は光が届かないので一番冷たくなります。夏の暑い時期、出水によりさくら

湖に流れて来る水は、水温約10～20℃で表層より重く深層より軽いため中間層（水温躍層）に流れてきます。ダムから放流する際、選択放流設備があり、この位置にあわせて浅層循環施設から空気を吹き上げ水温躍層の位置を選択放流設備の位置にあわせ放流します。こうして放流することによって、さくら湖をできるだけ濁すことなく塞索やリンを多く含んだ水温躍層の水をダム下流へ放流することができます。



自然観察ステーションからのお知らせ

< 冬の探鳥会 >

2月3日（土）午前10時～12時

申込期限 2月1日（木） 参加料300円

※さくら湖周辺で冬の野鳥を観察します。

< 星を見る会 >

2月9日（金）・17日（土）・23日（土）

午後7時～9時 参加料 大人200円

子供100円

※暖かい服装でご参加ください。

・・・お問合せは・・・



さくら湖自然観察ステーション 0247-61-1546

三春交流館まほら 0247-62-3837

三春ダム資料館からのお知らせ

三春ダム資料館 1階展示ギャラリーに展示する作品を募集しています。展示スペースは無料でお貸ししております。書展・絵画展・写真展やサークル仲間と合同の作品展など自由にお使いいただけます。詳しくは、三春ダム管理所 水質係（0247-62-3145）までご連絡ください。



ご連絡お待ちしております。

俳句ポスト 作品紹介



さくら湖に
早春の風
こころよく

初日の出
ダム湖静かに
森の増し

桜湖の
水辺をのぞく
孫の顔

さくら湖に
初冬の光
あだやかに

資料館に設置している俳句ポストに投函された作品の一部をご紹介します。



編集後記

本当に今年の冬はあたたかく、雪が積もったのも数えるくらいで、路面状況を考えると通勤には助かっていますが、このまま春を迎えるのでしょうか。会津や只見など冬のイベントを企画している市や町は、会場に雪をトラック何十台も運搬したり、雪不足のためイベントを断念せざるを得ない状況と報道されていました。寒いのは嫌ですが、ちょっと雪が恋しいな。

石井

編集・発行

国土交通省
東北地方整備局
三春ダム管理所

皆様のご意見や情報の提供を
お待ちしております。

〒963-7722

福島県田村郡三春町大字西方字中ノ内403-4

TEL0247-62-3145 FAX0247-62-3170

ホームページアドレス

<http://www.thr.mlit.go.jp/miharu/>